

第三者意見

社団法人日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント協会
常任理事

辰巳 菊子



企業のCSRは、社会からどうしても必要であると望まれている企業であることが根底にないと始まらないと思います。それにはどのようなアピールをし、社会にどのように受け入れられているかが重要で、メーカーであれば、まずはどのような人たちが、どのような製品を、どのような思いで社会に提供しているかにつくるのではないのでしょうか。そして、その心に広く共感いただき、初めて果たすことのできるものと思います。製品の発するメッセージ、そしてこのレポートがその志を私たちに伝える大事な役割を担っています。

社長と対談させていただき、昭和40年代から展開をされている海外では、その地域からの要請で地域に根を張るように製品づくりをされてきたというお話に、それこそがCSRそのものと感銘を受け、また製品一つひとつに対し、子どもに対するような熱い愛情を注がれ、社員一人ひとりにはマンダムのDNAを引き継いでほしいと何度も語られたことに、ほんとと安心できる温かさを感じました。さらに開発者のインタビューに見える製品へのこだわりからは、ますます製品への期待が高まります。これが社長の言われるマンダムのDNAだと理解できました。

一方、環境に配慮することは今の世にあって至上命令と私は思っております。毎日使う製品であり、防腐剤フリー処方や動物実験を減らすことなど大変評価できるものですが、その容器にも関心が向きます。販売店店頭で目立ち、手に取りやすく、さらには使いやすい形態を工夫することとのせめぎ合いの中で、さらなる環境配慮をすることで、中身に込めたこだわりも相乗効果となって伝わると思います。

若者がターゲットの商品には特にそういったメッセージを込めていただきたいと思います。明るくはつらつとしたマンダムさんが発するメッセージだからこそ、次世代を担う若者が環境に配慮することの重要性を学ぶことにもつながります。

これからも広い視野から将来に向けたマンダムの使命を確認し、推進されるCSRに大いに期待します。

読者の皆様へ

マンダムは経営哲学を基本として、CSR・環境への取り組みを進化させてきました。2005年度からの中期3カ年経営基本方針においては「品質保証、環境対策強化を柱としたマンダムグループ社会貢献活動の基盤づくり」を掲げ、マンダムらしい「社会との共存、共生」とは何かを追求しています。

その一環として、今回は「ステークホルダー・ミーティング」「第三者意見」を新設し、有識者の方々にご参加いただきました。いただいた貴重なご意見・課題を、着実にこれからのCSR・環境活動に反映させていきたいと考えています。

当社は化粧品メーカーであり、ステークホルダーの皆様と商品を通じてのコミュニケーション強化を最優先に考えています。皆様からの声を真摯に受け止め、化粧品として使いやすく、夢を与えるデザインであるとともに、より環境負荷の小さい原材料を使用した製品づくりに取り組んでいきます。

CSR・環境への取り組みは一つひとつの努力の積み重ねであり、企業としてできること、個人としてできることを着実に実行することが責務であると認識し、企業としての社会的責任を果たしていきたいと考えています。



執行役員
環境推進室、品質保証室、
ヒューマンリソース・
マネジメント部 担当
武田 武